



# フレンズアカデミー

マンハッタン校 (343 Lexington Ave., 5FL New York)

お問い合わせ/フレンズアカデミーディレクター：吉田 洋子

1997年にマンハッタンに開設して以来、幼児には日本語による安心できる保育を提供し、小学生にはバイリンガル環境で頑張る子ども達に、個々の成長や需要に応じた日本語指導を行なっています。更に2012年より大学受験のための高校生ステップアップクラスも開設しました。今回は、週日プログラムとウィークエンドスクールから幼児と小学生向けの教室の紹介をします。

## 週日プログラム (月～金)

<親子の日本語教室> (1歳～3歳未満) 火・水・木 10:00-11:30

子ども達が、保護者と一緒に集団活動の楽しさを体験できるクラスです。親子のスキンシップを大切にしながら、子ども達が周囲の友達との関係を築いていくお手伝いをします。歌や体操で体を動かしたり、発達段階に合わせて指の動きを意識した製作活動も取り入れたりしています。絵本等の読み聞かせも行ない、たくさんの日本語に触れることができるようにしていきます。



<幼児の日本語教室>

(2歳10カ月以上の未就学児) 午前 月・金 10:00-12:30 / 月～金 12:45-3:15

保護者と離れた環境で、子ども達が友だちとの関わりを楽しみながら生活習慣や生活言語の習得を目指す教室です。手遊びもたくさん取り入れ、生きた言葉を育むお手伝いをします。また、季節に関連した題材で、日本の歌や製作を行ない、日本の四季の行事への関心や興味を引き出していきます。



<日本語基礎教室> (3歳以上の未就学児) 火～金 3:30-5:30

語彙を増やし、日本語での表現力をつける教室です。グループ活動と個々の活動を取り入れ、話したり聞いたりする力を高めることを目指します。また、習熟度によりひらがなやカタカナの読み書きも学んでいきます。クラスは、下記のようにIとIIに分かれます。曜日によってクラスが合同となる場合があります。

I：日常会話としての日本語をこれから学ぶ段階の子ども。

II：日常会話としての日本語が話すことができる子ども。

<国語教室> (小学生) 月～金 4:10-6:00

学齢によらず、個々の力に合わせて日本語の読む、書く、話す、聞くという総合的な力を伸ばしていく小学生のクラスです。物語から説明文など色々なジャンルの作品を通して語彙を増やしたり日本語で考えたりする力をつけていきます。また漢字や作文では、個々への課題を用意し、無理なく日本語を身につけていくことを目指します。日本語の習熟度により、以下のようにレベル分けされています。

- I：日本語クラス 日常会話の上達に重点をおき、ひらがなの学習も行なう。
- II：初級クラス 小学校低学年レベルの文章理解を目標とし、カタカナや漢字の学習も取り入れる。
- III：中級クラス 小学生中学年レベルの文章理解を目標とする。
- IV：上級クラス 小学生高学年レベルの文章理解とともに、自分自身の考えを話し、分かりやすく書くことができる事を目標とする。



## ウィークエンドスクール (土・日)

<幼児の日本語教室> (3歳以上7歳未満)

土曜日	幼児の日本語教室 I	9:30～12:00
	幼児の日本語教室 II	1:00～3:30
日曜日	幼児の日本語教室 I・II	9:30～12:00
	幼児の日本語教室 II	1:00～3:30



<小学生の国語教室>

土曜日	小学生の国語教室 I	10:00～12:30
	小学生の国語教室 II	1:30～4:00



Iではひらがな・カタカナ・漢字を学習しながら語彙を増やしていきます。そして、詩や物語の音読にも力を入れ、日本語の美しさを味わえるようにしています。IIではIよりも考える力が必要な教材を通し、日本語で考える力をつけることも目標にしています。また毎週の音読練習や漢字テストを行ない、日本語のレベルアップを図ります。I・IIともに、日記などを通して日本語で自己表現する力もつけています。

<小学生の日本語教室>

日曜日	小学生の日本語教室 I	9:30～12:00
	小学生の日本語教室 II	1:00～3:30

日曜日の小学生教室は、日本語を学習するためのクラスです。Iでは9歳ぐらいまでの子ども達が日本語の語彙を増やしたり日本語の基本になる言い回しの練習をしたりしています。そして、ひらがな、カタカナ、漢字の順で文字の学習を進めています。

IIでは9歳以上の子ども達が日本語を話す練習をしつつ、日本語能力試験に対応できるように漢字の学習や語彙を増やす学習に取り組んでいます。

お問い合わせ  
フレンズアカデミーウィークエンドディレクター  
小松 奈緒美

～今号の目次～

P.1 フレンズアカデミーのお知らせ

P.2-P.5

**全日制幼児部・全日制小学部の取り組み**

- 日本語での幼小一貫教育と学園長より
- 全日制英語科からのお知らせ
- 充実の専科
- 年間を通じた体力作り
- JCSのご案内

P.6

P.7

- 2015年度NY育英学園全部門のご案内
- チャート表(未就園・幼稚園編)
- 2015年度NY育英学園全部門

募集要項・登録要項発表(追加募集)

P.8 育英サタデースクール全部門のお知らせ

P.9

- 育英サンデースクールN校のお知らせ
- アフタースクールのお知らせ

P.10

- シリーズ「教育座談会」
- (バイリンガル子育て講演・相談会)

P.11

- KIDS' ISOの取り組みについて

- ダブルダッチクラブのお知らせ

- 先輩から一言

P.12

- NY育英学園職員ペンリレー
- NY育英学園インターンシップ報告
- 2014年度NY育英学園ファンドレイジング報告
- 2015年度版NY育英学園オリジナルカレンダー完成のお知らせ

# 日本語での 幼小一貫教育

「お兄ちゃん、お姉さん達、すごいね！」

「僕達もあんなことできるようになるのかなあ。」

「字が読めるようになると本がたくさん読めていいねえ。」

「うん、僕達も早く小学校に行きたいなあ・・・。」

憧れの先輩達のいる小学部に入学することを心待ちにする年長組の子ども達。ここは、NJイングルウッドクリフスにあるNY育英学園。年長ひまわり組の20数名が小学部の授業参観に来た時の会話である。NY育英は同じ敷地内に幼児部・小学部があるという利点を生かして、小学生が幼児部へ行つての絵本読みや紙芝居のボランティア活動がある。読み終わって「おにいちゃん、おねえちゃん、ありがとう。」と言われる小学生の誇らしげな表情を見ていると、自尊心の育成になっていると感じるのである。

## 「海外だからこそ幼小一貫教育を！」 ～岡本学園長のことば～

自分の意志に反して海外へ出てきた母子にとっては環境の変化は予想以上に大きいのです。まず子ども達は、生活環境の変化、言語の変化でもストレスの固まりになります。子どもにとって大きいのは母親の変化です。車の免許がやっと取れても、スーパーの買い物ですら思うようにならない。大家との話、家電製品の修理屋との交渉等々、ストレスの連続です。そして、子どもはストレスフルな母親の態度を見る事が多くなります。親が日本にいたときのように自信を持った生活になるまでには時間がかかります。幼児部と小学部が同じ校舎で過ごし、幼児部時代から顔なじみの先生達が居る小学部を続けられるのは、ひいては親子共々の心の安定につながるのです。

私どもは、一貫した教育方針の下、子ども達の人生で一番吸収力のある大切な9年間を、温かく育むために日々努力を続けています。一生の思い出になる私達の充実した「幼小一貫教育」をぜひ楽しんで下さい。

Toru Okamoto



(絵：全日制小学部第4学年/岡崎 栞)

## 「大切な幼児部、小学部の教員の交流」 ～河野教頭のことば～

幼児部の教員が小学部へ行き小学校教育を見学研修をすることは「幼小合同」の強みです。NY育英では幼児部の保育者が小学部の教室に見学に行く事を通して、小学部の生活を見越した保育を行なえるようにしています。また、小学部の教員が幼児部に行き幼児教育についての理解を深めているのも本学園ならではの強みです。「幼稚園の保育者の声かけはとても丁寧です。指示の仕方や注目のさせ方等、学ぶことが多い。」との声も聞きます。学園では講師を招へいし、幼小の教員が共に学ぶ研修会も行なっています。幼児部・小学部が協力してより充実した一貫教育を提供できる様、これからも努めます。

## 創立35周年記念式典

学園では、8月22日に創立35周年を祝して記念式典が行なわれました。当日はたくさんの来賓をお迎えする中、学園職員数十名も参加しました。

冒頭の岡本学園長挨拶の中では、これまで各方面から学園を支援して下さった方々への感謝の意が伝えられ、創立者である丹羽美代子初代学園長の「よい子の学園」当時の様子や学園長他界後の苦労話が披露されました。

そして、これからの人材育成のため、学園は使命感を持って前進していきたいとの決意が述べられました。その後、国際ジャーナリストで本学園理事でもある岩本蘭子女史による乾杯の音頭により会は一気に盛り上がりしました。さらに、理事会を代表して国際連合児童基金ユニセフ本部顧問である吉田礼三氏より「この学園で学んでいる子ども達は世界一幸せである。そうした子ども達をこれからも世界で活躍できる人に育てていって欲しいと思います。」という挨拶が行なわれました。また、来賓を代表して在ニューヨーク日本国総領事館領事部長の青柳芳克氏より「1979年を振り返ると歴史的に見ても激動の年であった。そうした中、ここに至るまで本当に苦労の連続であったと思います。失敗を恐れず経験を積んでいって欲しいという強い思いのもと更に多くの卒業生を輩出していって欲しいと思います。」という祝辞が述べられました。

歓談をはさみ、記念演奏会として世界でも数少ない古代のハーブである箜篌(くご)の演奏家である菅原朋子女史によるミニコンサートが開催され、「さくら さくら」、「カムル」、「セイカイガ」といった曲が奏でられました。

続いて、「国際感覚とは何か」というテーマで、コミュニケーションセラピストで本学園アドバイザーでもあるカニングハム久子女史の基調講演が行なわれました。同氏は自身の経験と重ねながら以下のように話してくださいました。

「国際感覚とはその国の文化に深く触れてこそ身につけられるものである。」

「心が豊かに育まれていなければ決して身につけられる感覚ではない。」

「他者との相互理解が最も大切なことなのだ。」

参加した来賓、職員たちはその一言一言に深く納得した様子で、頷きながら大きな拍手を送っていました。

その後、総合ディレクター上妻雅浩事務局長より、理事やアドバイザーとの出会いについて一人ひとり語られ、感謝の言葉と共に閉式の辞が述べられました。



岩本蘭子女史



カニングハム久子女史

お問い合わせ/全日制教頭：河野 茂

## NY 育英学園発 英語教育へのチャレンジ

# NY 育英クロスメソッド とは何か？

NY  
IKUEI  
M T W T  
Cross Method

F  
R  
I  
D  
A  
Y



An Advanced Method to Nurture Bilingual Students

※写真(金曜英語の日の活動の様子)：ハロウィーンパーティーなどアメリカならではの季節の行事を楽しむほか、現地校との交流会(New Friends Day)では、日本文化の紹介を行うなど、日本人としてのアイデンティティを大切にバイリンガル教育を行なっています。



## 《NY 育英メソッドの特徴》

### ① クロスメソッド～Cross Method® 毎日の英語学習と金曜丸一日英語の日による基礎と応用のクロストレーニング

- 【基礎力定着型学習】月～木曜は、4・5・6年混合クラス(6クラス)、2・3年混合クラス(6クラス)、1年(3クラス)の少人数(3～10人)レベル別クラスで毎日コツコツじっくりと学習。
- 【応用・実践型学習】金曜は、学年を考慮した縦割りレベルクラス(7クラス)で、Vocabulary, Spelling, Grammar, Reading, Conversation, Writing 力を強化するほか、現地校のように算数、理科、社会などを英語で学習。

⇒1週間の中で縦横にまたがる、十字(cross)を描くような時間軸の中で、スポーツトレーニングのような学習効果を獲得!

### ② 週10コマ、年間約365コマの英語学習

毎日1コマの英語(④コマ) + 金曜1日英語の日(⑥コマ) = 週合計⑩コマ  
文科省の定める外国語活動の3～10倍の学習時数で、コミュニケーション力を強化。

### ③ レベル別クラスと充実の教師陣

1～6年生を、ESL(7レベル)、バイリンガル\*1(7レベル)のレベル\*2に分け、7人のネイティブおよび日英バイリンガル教師による充実の授業を展開。

\*1. バイリンガル児童のクラスでは、現地校で使用されているLanguage Artsの教科書を使用して学習します。  
\*2. クラスは、月～木のバイリンガルクラスおよび金曜日は、2レベル合同のクラス編成になることがあります。

**現地校へのソフトランディングをサポート**：せっかくアメリカに来たのだから現地校を体験させてあげたいと願う保護者にとって、日本から来たばかりの子どもたちが、いきなり現地校に入って上手くやっていけるのかという不安はつきものです。NY育英メソッドは、日英バイリンガル教師と日本語もわかるネイティブ教師の元で、子どもたちが負担なく英語での生活に慣れ、ある程度のコミュニケーション力を身に付けてから、自信を持って現地校にチャレンジできるような応援もしています。

## なぜクロスメソッドなのか？

学習効果を上げるには、基礎学力の定着と応用・実践の2つの要素のバランスが取れた教育が理想とされます。この定着(毎日1時間の英語学習)と応用・実践(金曜丸1日英語による教科学習)の2つの目的を達成できるのが、NY育英学園のクロスメソッドなのです。

このメソッドにより、スポーツのトレーニング(日々の練習と週末の試合)のような英語学習効果を得ることができると学園では考えています。

## 日本語との両立

日英両語のバイリンガル教育を推進するために、日本の文部科学省が定める新学習指導要領に従った年間のカリキュラムを、各学年において完全実施しつつ、本校ならではの多種多様な独自性あふれる学習活動も展開。それに加えて、レベルの高い英語学習活動を実施しています。結果子どもたちは、週3分の2を日本語、3分の1を英語で学習します。

## 週10コマ英語の効果

日本での2014年度改定新教育課程では、外国語活動の時間が、3,4年で週1～2コマ、5,6年で週3コマ、年間通して35～105コマの授業数が定められています。一方NY育英学園では、1年生のうちから年間約365コマの英語活動を実施しており、英語を初めて学習することになった多くの中・高学年児童が平均半年で英検5級レベル、1年後で英検4,3級、2年後で英検準2級、3年後で2級レベルの英語力を獲得しています。なお、ESLクラスではコミュニケーション力の強化が第1目標とされ、英検4,5級程度の英語力を獲得した時点で、子どもたちは日英バイリンガル教師からネイティブ教師のクラスに移り、リスニング・スピーキング力を鍛えます。※学園では、実用英語技能検定の資格取得を奨励しています。

## 金曜プログラムの例

金曜は、英語科教師が各学年の担任となり、朝の会から帰りまで丸一日現地校のように英語で学習します。午前中は、語彙・文法・会話表現・リーディング、読解・ライティングなどを集中的に学びます。午後は現地校の社会、理科、算数の教科書を使用し、英語での教科学習を行います。また、ハロウィーンパーティーや、ホリデーパーティー等季節の行事に関わる活動を取り入れたり、現地校との交流会(New Friends Day)をもつたりと、総合的な学習も行ないます。

<中級クラスの場合> 1コマ=40分  
1時間目：Vocabulary(語彙), Spelling(スペル)  
2時間目：Grammar(文法)  
3時間目：Reading(読解)  
4時間目：Writing(英作文)  
<昼食・昼休み>  
5時間目：Social Studies(社会)/Science(理科)  
6時間目：Math(算数)/P.E.(体育)

お問い合わせ/全日制英語科主任：中川 晴美

## ～感性を磨く創作活動～

## 図画工作科

お問い合わせ/全日制図画工作専科：百瀬 啓一郎

○授業時数：各学年週に1回（2校時分/80分間）

○目標：低学年・・・自分の感性を発揮できる教材を選び、技術的内容のみに偏らないことができる  
 中学年・・・自分の考えをまとめ、客観的に自己表現できる自分なりの方法論を見つけることができる  
 高学年・・・総合的な造形力を身につけ、身の回りの環境において創造的な活動を進んですることを段階的に達成していくことができる

低学年の子ども達は自らの描きたい事がとてもたくさんあり、時間があると常に絵を描いたり、遊ぶ物を作ったりと創造的な好奇心にあふれている。特に2年生は感覚的表現力が1年生時より更に高まり、創作活動に対する集中力は、全学年を通して一番高くなる時期と言える。中学年になると、感覚的創作活動から、道具などを使った手順を踏んだ創作活動ができるようになってくる。感覚的なひらめきは少し影をひそめ、手・指の力がつき、物を組み立てたり版を彫ったりする活動に力が入る。また、共同制作で一つの作品を仕上げる活動に必要な話し合いと協力の姿勢ができてくるので、中心となって創作活動を引っ張ることができる子が全体のまとめ役として活躍する。そのため、壁画などの大作は、この時期により作品が残る。高学年は、自己の再発見を試みる時期として位置づけられる。絵画や彫刻の創作活動を通して個性的な自己表現の方法の確立を目指すことを目標としてあげつつ、友達の作品のよさや古典と呼ばれる作品のよさに気づき、自分の創作活動に積極的に取り入れる工夫をすることも大切な要素と考える。

こういった成長過程と発達段階を大切にしながら、NY育英学園独自プログラムとして、学園祭の背景画共同制作（約4m×8m）、卒業制作（トーテムポール作り、テラコッタレリーフ、アクリル天井画・壁画 他）などに取り組んでいる。



これまでの指導経験を振り返ると、図工の時間は静かに絵筆を持って描くと言うよりも、むしろお互いが自分の思ったことをどんどん発表しているのどちらかと言うと騒がしい。しかしそれは、友達との情報交換の時間なのである。そんな子ども達の前向きな姿を見ているのは本当に楽しいことである。常に自分の周囲に耳を澄まし、自分の感性を開いて周囲と対話しようとしている姿勢を持ち続けられる子ども達を育てていきたい。



二〇一一年度全日制  
小学部卒業制作作品

## ～音楽でひとつになる～

## 音楽科

全日制部門小学部の音楽では音楽的感性、知識、創造力をバランスよく育むことを目指し、毎回の授業を行なっています。小学校低学年では特に、楽しみながら自然に音楽の世界に親しめるよう心がけながら、様々な曲の歌唱や演奏、鑑賞や話し合い等を通し、表現力と感受性を伸ばしています。中でも自分たちで考え工夫をし、音楽を作る創作活動は、各学年とも特に楽しんで意欲的に取り組んでいます。1年生はトライアングルと鈴の奏法を学習した際、夜空に光る星の様子をこれまでに習ったリズムを取り入れて創作する工夫をし、見事に表現しました。また学習曲「はるなつあきふゆ」では、グループに分かれそれぞれ異なる季節を担当し、振り付けと歌い方の工夫を自分たちで考え発表し合いました。2年生は、1年生と比べさらに複雑なリズムや、2拍子と3拍子の違いも学習したことから、祭りの太鼓のリズムを自分たちで作曲し、発表し合いました。また学習曲「かぼちゃ」では、様々な打楽器の響きの重ね方をグループごとで工夫し、とても盛り上がりました。3年生では、リコーダーの導入が一つの大きな課題ですが、お囃子の旋律を一人ひとり分担して作曲し、太鼓のリズム伴奏に合わせて見事な合奏ができました。

高学年では、引き続き合奏や合唱を通して音楽の理解を深め、楽器の演奏技術、読譜力の向上と共に、子ども達自らが音楽で表現することを楽しめるよう心がけています。4年生は、3年生から始めたリコーダーをさらに上達させるべく、日々の練習を重ねています。授業前の休み時間にもリコーダーを練習する音が聞こえてくるほどです。5年生はこの秋、「威風堂々」でリコーダーを猛特訓、また楽器編成を話し合い、様々な楽器に分かれての合奏を見事に完成させました。6年生では、「星の世界」「ふるさと」で3部合唱の美しさを味わっていています。

こうした音楽授業や、第一線で活躍する音楽家を招いてのコンサートなどを通じて、子ども達は音楽の楽しさや感動をより身近なものとして捉え、音楽で仲間とひとつになる喜びを感じています。



お問い合わせ/全日制音楽専科：内山 瑞穂（高学年担当） 赤坂 優介（低学年担当）

## 書写専科

## ～正しく・丁寧に書く～

全日制部門小学部の書写の授業では文字を正しく整えて丁寧に書くことを目標とし、授業に取り組んでいます。

1年生では、ひらがな・カタカナ・漢字の学習へと移っていきます。特に1年生は筆圧がまだ弱いので鉛筆の使い方からしっかりと指導しています。繰り返し書くことで、形や筆順を覚えていきます。また一文字習うごとにみんなで空書きをし、止め・はね・はらいを身体で覚えるという授業も取り入れています。2年生では1年生で取得した学習を元に、さらに丁寧に、ひらがなと漢字のバランスを考えて書くことを目標にしています。2年生になると、1年生に比べ筆圧、文字の組み立て方などの発想力が増し、より丁寧に書くことができるようになります。子ども達のノートを見ると第1学期と第3学期では見違えるように上達しています。3年生からは毛筆の授業が始まります。毛筆で行なう筆使いの学習から、はねやはらいなどの点画の力量の変化やリズムを確かめることを目標としています。また、毛筆の学習を硬筆の基礎を助けるための道具ではなく、書という文化としての見方も取り入れ、子ども達に日本文化を伝えられたらと思っています。

4年生では3年生での学習を元に、文字を増やしまとめることを学んでいきます。4年生になると準備や片付けも自分たちでしっかりできるようになります。5年生では半紙にどう書けば綺麗に見えるか、どんなバランスで書けばよいのかを考えながら書くことを取り入れながら授業を進めます。子ども達同士で、お互いの作品を見合いながら、ここはもう少しこうすればいいなど、意見を交換できるまでになります。そして6年生では、手本がない場合においても今までの規則性を振り返り課題を書けるように定着させることを目標にしています。また、大筆だけではなく、小筆を使い半紙に俳句を書くこともします。小筆は大筆に比べ扱いが難しいので苦戦しています。しかし、皆、最後にはとてもしっかりと書くことができるようになります。

このように、各学年習得する内容は少しずつ高度になってきますが、基本は正しく丁寧に整えた字書くことです。字が上手なことは一生の宝物。

子ども達の「できた」の感動と喜びを感じさせられるような授業をしています。



お問い合わせ/全日制書写専科：百合 素子

## 体育科

## ～「学び合い」を深めるために～

ニューヨーク育英学園全日制小学部体育科の授業は、水泳（4月～9月）、器械運動、陸上運動、球技運動、縄跳びの5領域に加え、冬季にはスケート教室を行なっています。日本帰国時に子ども達が体育の授業で困らないよう、日本の学校教育で行なわれている体育での運動（マット運動、跳び箱、鉄棒、縄跳び等）に加え、当地ならではの活動（スケート等）を取り入れて授業を展開しています。原則としては「学び合い」を深めるため、グループでの学習形態をとり、各領域の本当の面白さを子ども達全員で味わえるように活動をしています。器械運動は自らの身体を支える支持運動（側転や逆立ち等）や身体の使い方を学ぶ回転運動（前転・後転等）の学習から始め、跳び箱や鉄棒運動へと発展させていきます。球技はサッカー、バスケットボール等を通じてコンビネーションからのシュート。陸上は短距離走や中距離走、リレーなどを通してリズム変化を含んだスピードコントロールや持久力の獲得。縄跳びでは様々な技の習得を通し、縄を使った空間表現が楽しめるように指導を進めています。また、冬季は貸し切りのアイスリンクでプロインストラクター指導の下、スケートの学習を楽しみます。

このように体育科では年間の授業を通して、豊かな個と集団が共に育まれる事を目指しています。また、体力づくりの一環として学年ごと（主に高学年）に登校後のホームルームの時間を使って「3分間持久走」を行なっています。それぞれが自分に合った目標を定め取り組んでいます。その結果は廊下にチャート表として貼り出され、子ども達の意欲を高めています。その効果は顕著に現れ、運動が苦手であった児童が休み時間に率先してマラソンに挑戦する姿なども見られるようになりました。また、低学年の児童も休み時間などを利用して、長縄やダブルダッチに挑戦し身体を動かしています。

心身共に健康であることは子ども達の成長にとって欠かせないことです。今後も様々な運動を通して健やかな成長の一助となるよう切に願っています。

### —学習内容—

水泳	4泳法 (クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ)
器械運動	マット運動、跳び箱運動等
陸上運動	短・中・長距離走等
球技運動	バスケットボール、サッカー、ドッジボール、ポートボール
縄跳び	短縄跳び(検定実施)、長縄跳び(長縄跳び大会)
スケート	基本姿勢、氷上歩行、自力滑走、バック、クロス滑走



お問い合わせ/全日制教頭：河野 茂

### New Jersey キャンパス (イングルウッド・クリフス)

8 West Bayview Avenue, Englewood Cliffs, NJ 07632  
Phone: (201)947-4832 Fax: (201)944-3680 E-mail: [info.nyikuei@gmail.com](mailto:info.nyikuei@gmail.com)

### 全日制デイスクール 幼児部/小学部

E-mail: [dayschool.nyikuei@gmail.com](mailto:dayschool.nyikuei@gmail.com)

### 幼小一貫全日制教育

日本の文部科学省のカリキュラム準拠+ESL&現地校英語

### 日英バイリンガル教育 (小学部)

毎日1時間の英語+金曜日1日英語=週10コマの英語  
1週間の1/3が英語学習  
充実の7段階の習熟度別の英語クラス編成  
ネイティブレベルは現地校のランゲージアーツの教科書を使用

### 幼児部

年少組、年中組、年長組、  
ゆり組 (ウェディング特設クラス)

### 小学部

小学1年~小学6年

様々な放課後クラブ活動  
(幼・小) サッカー部、水泳部、ダブルダッチ部、ダンス部、  
体操部  
(幼児部のみ) ボール遊び  
(小学部のみ) 野球部、ボードゲーム部

実用英語技能検定→E-mail: [eiken.nyikuei@gmail.com](mailto:eiken.nyikuei@gmail.com)  
漢字能力検定→E-mail: [kanken.nyikuei@gmail.com](mailto:kanken.nyikuei@gmail.com)  
硬筆・毛筆書写検定→E-mail: [shoshaken.nyikuei@gmail.com](mailto:shoshaken.nyikuei@gmail.com)

実用算数技能検定→E-mail: [suken.nyikuei@gmail.com](mailto:suken.nyikuei@gmail.com)  
日本語検定→E-mail: [goken.nyikuei@gmail.com](mailto:goken.nyikuei@gmail.com)

### アフタースクール

E-mail: [afterNJ.nyikuei@gmail.com](mailto:afterNJ.nyikuei@gmail.com)

幼児の教室 (つばめクラス)  
小学生の国語・算数教室  
ESL (年少~小学6年)  
ピアノ教室  
空手教室  
書道教室  
幼児おんがく教室 (年少~年長)  
いろはにほんご教室 (国語クラス)  
→E-mail: [iroha.nyikuei@gmail.com](mailto:iroha.nyikuei@gmail.com)

### 育英サタデースクール ニュージャージー校

E-mail: [satNJ.nyikuei@gmail.com](mailto:satNJ.nyikuei@gmail.com)

幼児部 (年中、年長)  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・ 野球部、サッカー部、卓球部、室内球技部、  
アート部、ダンス部、書写部  
中学部 (中学1年~中学3年)  
・ 中学部クラブ  
高校国語・数学コース (高校1年生・高校2年生)

### 日曜プログラム

日曜ピアノ教室  
日曜バイオリン教室  
日曜野球教室 (春・秋)  
いろはにほんご教室 (JSL/JFL)  
日曜ダブルダッチ  
日曜寺子屋アカデミー  
(書道、そろばん、理科実験、陶芸&アート)  
→E-mail: [terakoya.nyikuei@gmail.com](mailto:terakoya.nyikuei@gmail.com)

### 日ようびは日本語であそぼう

E-mail: [nichinichi.asobo.nyikuei@gmail.com](mailto:nichinichi.asobo.nyikuei@gmail.com)

日ようびは日本語であそぼう (2歳半~5歳)

### 育英サマーキャンプ

E-mail: [SummerCamp.nyikuei@gmail.com](mailto:SummerCamp.nyikuei@gmail.com)

サマーキャンプ (宿泊)  
サマーデイキャンプ  
サマー野球教室

### 育英スキーキャンプ

日帰りスキー教室 (12月~2月)  
宿泊スキーキャンプ (12月、2月)

### りんごラーニングセンター (フォート・リー/NJ)

■プレイグループ親子教室 (おおよそ1歳から)  
親子クラス、親子分離クラス  
■きりんのへや こども園 (NJ州認可)  
日本語による長時間保育 (2歳半から)  
■ホームスクールシステム E-mail: [homeschool.nyikuei@gmail.com](mailto:homeschool.nyikuei@gmail.com)  
■語学部門  
現地校サポートプログラム  
各種テスト対策  
・ 英語検定、SAT、PARCC、TOEIC、TOEFL  
ビジネス英語  
英会話  
書道教室

いろはにほんご教室 (日本語クラス)  
サタデー英語補習校

2460 Lemoine Avenue, #103, #104, #105, Fort Lee, NJ 07024  
Phone: (201)947-4707  
E-mail: [Ringo.nyikuei@gmail.com](mailto:Ringo.nyikuei@gmail.com)

### 検定関係

### 育英ポートワシントン校 (ロングアイランド)

育英サタデースクール ポートワシントン校  
幼児部 (年中、年長)  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・ 書道教室、ダブルダッチクラブ、総合体育教室、合唱クラブ  
中学部 (中学1年~中学3年)  
・ アドバンスクラス国語・数学、書道教室、  
ダブルダッチクラブ、合唱クラブ  
高等部 (高校1年~高校2年)  
・ 書道教室、ダブルダッチクラブ、合唱クラブ

### 平日アフタースクール

国語・算数  
ホームスクールシステム

Kuei Saturday School of Port Washington  
Location: Carrie Palmer Weber Middle School  
Port Washington Office  
8 Maple Street #6, Port Washington, NY 11050  
Phone: (516)767-3139  
土曜日のみ: (516)455-3871 / (201)362-5678  
Fax: (516)767-2753  
E-mail (オフィス): [satPW.nyikuei@gmail.com](mailto:satPW.nyikuei@gmail.com)  
E-mail (アフター): [afterPW.nyikuei@gmail.com](mailto:afterPW.nyikuei@gmail.com)

### フレンズアカデミー (マンハッタン)

343 Lexington Ave., 5FL, New York, NY 10016  
Phone: (212)935-8535  
Fax: (212)813-0122  
E-mail: [Friends.nyikuei@gmail.com](mailto:Friends.nyikuei@gmail.com)

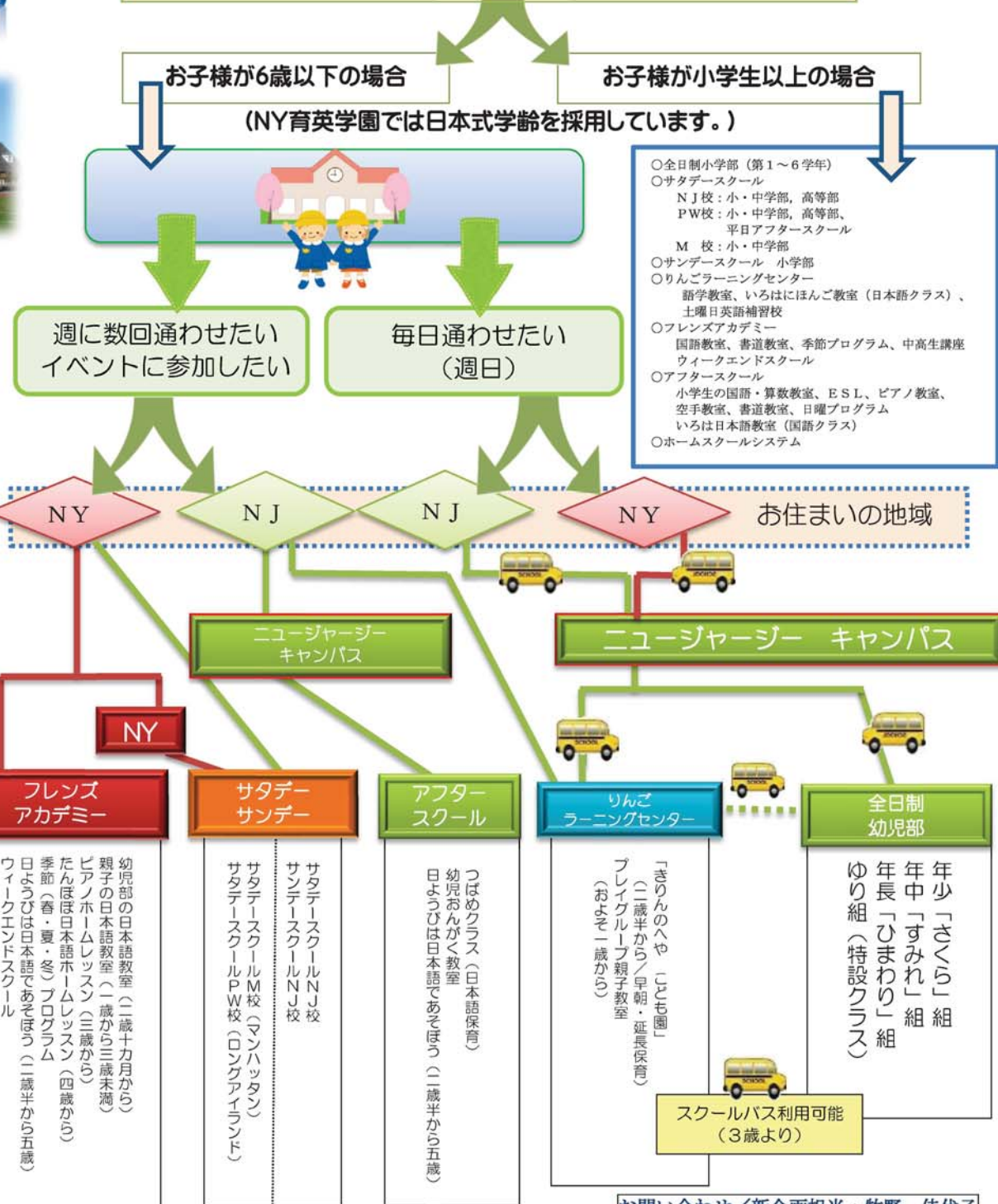
■国語教室 (小学生から)  
■親子の日本語教室 (1歳~3歳未満)  
■幼児の日本語教室 (2歳10カ月から)  
■日本語の基礎教室 (3歳から)  
■ピアノホームレッスン (3歳から)  
■書道教室 (年中から)  
■たんぼぼ日本語ホームレッスン (4歳から)  
■季節プログラム  
春→春のお勉強スクール  
夏→幼児サマースクール、お勉強サマースクール  
冬→冬のお勉強スクール  
■中高生講座 (中学生・高校生対象)  
SAT・ACT指導/SSAT・ISEE指導  
大学受験指導/日本語能力試験指導 (日本語を母国語としない方)  
■日ようびは日本語であそぼう (2歳半~5歳)  
(NJキャンパスへスクールバスが出ます。)  
■ウィークエンドスクール  
E-mail: [weekendFriends.nyikuei@gmail.com](mailto:weekendFriends.nyikuei@gmail.com) (土曜日&日曜日)

### 育英サタデースクール マンハッタン校 (マンハッタン)

育英サタデースクール マンハッタン校  
幼児部 (年中、年長)  
小学部 (小学1年~小学6年)  
・ 合唱部、リズムダンス部、書写部  
中学部 (中学1年~中学3年)  
・ 書写部、アドバンスクラス

Location1: Friends Seminary  
Location2: Grace Church School  
Phone: (201)947-4832  
※土曜日のみ: (201)637-3927 / (201)449-4501  
Fax: (201)944-3680  
E-mail: [satM.nyikuei@gmail.com](mailto:satM.nyikuei@gmail.com)

## NY育英学園チャート (未就園・幼稚園編)



## 2015年度NY育英学園追加募集のお知らせ

2015年1月12日現在

部門	学部 (組/学年)	定員(名)	応募資格 (出生時期)
全日制	幼児部 (3歳児年少組)	26	2011年4月2日~2012年4月1日
	小学部 (新1年生)	24名	2008年4月2日~2009年4月1日
アフタースクール	ニュージャージー校 幼児部	10	2009年4月2日~2012年4月1日
	ポートワシントン校 平日 (新1年生)	6名	2008年4月2日~2009年4月1日
サタデー	ニュージャージー校 4歳児	24	2008年4月2日~2009年4月1日
	ポートワシントン校 年中組	20	2010年4月2日~2011年4月1日
サタデー	幼児部・新1年生 (2009年度全学年中・上・下学年) (2010年度全学年中・上・下学年)	各18名	2009年4月2日~2013年4月1日
フレンズアカデミー	親子の日本語教室、幼児の日本語教室、日本語の基礎教室、国語教室、日本語ウィークエンドスクール (土日のみ/小学生日本語)、SAT・大学準備コース、書道教室、ピアノレッスン、たんぼぼ日本語ホームレッスン、Japanese Lesson for Adultの各プログラムを対象年齢や定員あり (随時受付中)		
りんごラーニングセンター	「きりんのへや こども園」、プレイグループ親子教室、語学部門ごとに対象年齢や定員あり (随時受付中)		
ホームスクールシステム	育英 Sat & Sun 準備コース、幼児訪問コース、個別カリキュラムコース (2015年度より受付開始)		

## 育英サタデースクール設立の経緯・役割について

1993年10月3日、土曜日本語教室として年中・年長合同クラスがスタートしました。数名の園児からのスタートでしたが、昨年、設立20周年にちなみ、当時の園児の保護者にお会いし、既に社会人として日本、ドイツ、アメリカなど世界各地で活躍されているとの嬉しい報告を頂くことができました。

1979年マンハッタンでスタートした「日本語を話す子ども達のためのプレイグループ」が設立母体である当学園も1984年にNJに移転してからは、私立日本人学校として全日制幼稚園・小学校をその運営主体としていました。そこに、理事会で土曜日の補習校部門を設立計画中となり、それに対して学園関係者、内外より様々な意見が寄せられました。その中心的な意見は全日制部門の存在意義にも関わるものでした。アメリカにいる9割以上の児童が現地校に通っている状況の中、この地域のニーズに応える教育機関としての役割を担うための将来像が理事会、学園関係者を中心に侃々諤々と話し合われました。そして、全日制日本人学校部門とサタデースクール（土曜日補習校）部門を併せ持つ、両輪態勢の学校づくりが1993年の理事会で決定されました。何よりも地域のニーズに応えるという設立当初の存在意義に立ち返った判断でした。

その後、マンハッタン在住の保護者の声に応える形で、1997年にマンハッタン校が、続いて1999年にロングアイランドのポートワシントン地域に設立されました。次に教室数不足のために設立が見送られていたNJ校の中学部が卒業を控えた保護者の方々の強い要望に応える形で、教室を幾つかに区切るという苦肉の策の工事を経て、2005年に実現しました。NJ・NY日本人学校の統廃合が決定（後に撤回）された時期でもあり、NJ州から全日制日本人学校中学部がなくなることに對して、私どもの全日制小学部卒業生の進学先（①全日制日本人学校中学部、②現地校+補習校（または塾）、③帰国して日本の中学校に進学）の一つとしても提供することができるよう、理事会で設立が決定されたものでした。そして、2009年には、これまた教室数不足でこれまで設立が見送られてきた高等部が中学部下校後に開設され、ここに幼児部から高等部までの幼・小・中・高一貫のサタデースクールがNJ校に完成しました。

NJ校以外はマンハッタン校（M校）もポートワシントン校（PW校）も現地の学校を借用しているために、毎週土曜日、教材教具を学園バンナー一杯に積んで先生達が毎回運んでいます。また、図書を保管するスペースもないため、当番制で毎回保護者の皆さんにご協力頂き、土曜日に一箱ずつ持ち寄って頂き、放課後にまた持ち帰って頂いて頂いています。このような保護者の方々の温かいご協力、ご理解のもとに成り立っています。

2014年12月現在、NJ校、M校、PW校合わせて、幼児部から高等部までの538名の子ども達が週1日、日本語で遊び、集い、学んでいます。

## 育英サタデースクールの特色

一番の特色は全日制部門とサタデースクール部門の先生達による共同運営態勢にあります。全日制部門で日本の文科省の保育・教育過程に基づく指導に毎日携わる教師と、週日に現地校に通う子供たちの学校事情をよく知る経験豊かなサタデースクールの教師がお互いに経験・知見を共有し合いながら、目の前にいる子供たちの実態に沿った、子供達の「今」の生活に役に立つ保育・教育になるよう心がけています。

【幼児部】 「あいうえお」も漢字も書ける、けれど、話せないし、何を言われているか分からない。このような幼児に少なからず接してきました。また、小学部になって、漢字テストはよくできる、でも授業で何が話されているのか分からない、それですまらなくなり、仕方なく退学というケースも稀ではありません。私どもの幼児部では、何よりも「日本語」での遊びや、お友達や先生とのやり取りの中で、生活の一部（保育活動）として日本語を聞き、話すことを通して生活の言葉として身につけていくことができるよう心がけています。



【小学部】 国語、算数、社会、理科といった小学校の主要教科に加え、体育を加えた6校時の授業を基本としています。「前にならえ」といった日本の体育の基本的動作からラジオ体操など、日本の体育活動を体験できます。また、音楽の授業も学期に数回実施します。リコーダーでの演奏のみならず、音楽の教科書を聞く貴重な機会となります。理科では教科書にある実験は出来る限り実施するようにしています。



【中学部】 国語、数学、社会の3教科を各2時間ずつ、6校時の授業を展開しています。また、理科（実験）を各学年、各学期に2回程度実施し、実験・観察を通して、理科の基礎知識や専門用語を学んでいます。

【高等部】 NJ校では教室数の関係で、放課後に各1時間、国語と数学を学習しています。PW校では中学部同様、1日6校時、国語、数学、課題研究（小論文、日本史、日本文化体験など）に取り組んでいます。高等部の生徒には、幼児部や小学部の行事へのボランティア活動に参加する機会も提供し、ボランティア証明を発行しています。

【放課後の活動】 各校に様々なクラブ活動が用意されています。書道クラブ、ダンス部、各種運動部、合唱部などがあります。その他、各種検定（漢字検定、数学検定、書写検定、日本語検定など）の受検、バイリンガル子育てワークショップ、各種教育相談（米国でのNY、NJ州 Special Education services の受け方など）も実施しています。

お問い合わせ/サタデースクール総合ディレクター：上妻 雅浩

## サタデースクール紹介

育英サタデースクールでは、毎週日曜日の午後1時から午後5時まで保育・授業が行なわれています。（年間の保育・授業日数は約40日）日曜日の午後から保育・授業が始まるため、その午前中を地域のクラブ活動や日本語の予習、復習の時間、家族とゆっくりと過ごす時間などに充てることができます。また、少人数制の利点を生かし、極めの細かいアットホームな雰囲気の中で保育・授業が実践されています。

幼児部では、様々な人たちと関わりながら、日本の文化や伝統的な行事などを体験し、楽しみながら日本語の習得ができるようにカリキュラムを編成しています。また、親子で楽しむ保護者参加型のプログラムも多数取り入れ、保育を通して親子間の交流を積極的に深めています。様々な文化的背景を持つ子ども達が教室という同じ空間の中で共に過ごすことは、感受性豊かな幼児期の園児の成長の一助として、とても大きな意味があると考えます。こうした活動を通して「豊かな心」を育み、他者を認め合うっていきたくて考えています。

小学部では日本の文部科学省の指定する検定教科書を使用し、国語、算数を毎回2時間ずつ学習しています。それに加えて1・2年生は生活科、3年生～6年生までは隔週で理科・社会を学習します。教師は「効率的で分かりやすい授業実践」のため、日々教材研究に励んでいます。授業はどの教科においても、発言の中から学習への理解が深まるよう議論・討論を中心に展開し、確かな理解・定着を図っています。

週に一度の授業日ということから、家庭学習（宿題）が非常に重要なものとなります。そこで日本語による確かな学力が身につけられるよう、学校と家庭が密に連絡を取り合い、両者一丸となって子ども達の学習のサポート体制を組んでいます。

その他に運動会や書き初めなどの日本の伝統的な行事活動、日本式の体育・音楽の授業、校外学習（6年生）などが行なわれています。特に運動会では運動技能だけでなく、異学年間の交流を通して主体的に取り組む心を同時に育てています。

お問い合わせ/サタデースクールディレクター：河野 茂



## アフタースクール紹介

育英アフタースクールは、お子様を現地校に通わせながら「日本語をもっと学ばせたい」「日本語での活動や学習の場を深めさせたい」という要望を持ちつつ、週末は家族でゆっくり過ごしたいと思われている方々が多く参加されているのが特徴です。また、現地校が終わった後すぐに日本語の保育・学習を受けられる時間帯に位置するプログラムです。

「幼児の教室（つばめクラス）」は、午後3時30分に始まり、日本語による遊びや歌、製作活動、紙芝居、絵本の読み聞かせなど、保育のエッセンスがたくさん盛り込まれています。また、最初はお互いを知らない園児も、少人数でアットホームな雰囲気のため、すぐに打ち解けて、楽しく活動しています。

小学生の児童を対象とした、「小学生の国語・算数教室」では、楽しく学び、教科書や副教材を使いながらしっかりと学習の基礎を身につけていきます。大勢のクラスでは、発言や発表の機会も少なくなりがちですが、このクラスは定員12名の少人数制なので、一人ひとりの発言や発表の場を重視し、児童への細やかな配慮がある授業が進められています。さらに、日本の学校行事には欠かせない運動会も育英サタデースクールと合同で行なっています。

「幼児の教室」

〈対象〉 年少～年長の幼児（全学年合同の縦割りクラス）

〈内容〉 日本語による遊び、製作活動、紙芝居、絵本の読み聞かせや日本のお歌など。

〈時間帯〉 午後3：30～5：30

〈定員〉 各学年10名

〈曜日〉 火曜、木曜、金曜  
\*週1回または2回

〈回数〉 年間36回（週1回の場合）

「小学生の国語・算数教室」

〈対象〉 小学1年生～6年生

〈内容〉 国語の授業を中心に、算数を加えた2教科。  
※生活、理科、社会は国語との関連で取り扱うことがあります。

〈時間帯〉 午後4：00～7：10

〈定員〉 各学年12名

〈曜日〉 火曜、木曜、金曜  
\*学年によって曜日が異なります。

〈授業数〉 各学年 年間39回

「いろはにほんご教室」2015年度年間計画

「いろはにほんご教室」は、日本語を学習したい、日本語の能力を身につけたい、日本語を話してみたいなど、それぞれのニーズに合う個に応じた日本語の教育をという思いから2013年度に新規開設したクラスです。まずは体験してみたい、という皆様のために年3回のワークショップと育英サマーカーでのクラスをご用意致しました。ぜひこの機会をお見逃しなく。  
※詳細は学園ホームページをご覧ください。  
※お問い合わせ先 [IROHA.nyikuei@gmail.com](mailto:IROHA.nyikuei@gmail.com)

		NJキャンパス		NJキャンパス・0んご		0んごラーニングセンター	
		水曜日(午後4時～5時)		水曜日(午後4時～5時) 土曜日(午後1時～2時)		土曜日(午後1時～2時)	
年度	学期	月/週	国語クラス(Kokugo)	日本語クラス(Japanese)	Nihongo(JSL/JFL)		
2014年度	第3学期	2月1週目	2月4日(水)	2月4日(水)、7日(土)	2月7日(土)		
		2月2週目	2月11日(水)	2月11日(水)、14日(土)	2月14日(土)		
2015年度	2015年度 第1学期	2月3週目	2月18日(水)	2月18日(水)、21日(土)	2月21日(土)		
		2月4週目	5月20日(水)	5月20日(水)、23日(土)	5月23日(土)		
		5月5週目	5月27日(水)	5月27日(水)、30日(土)	5月30日(土)		
		6月1週目	6月3日(水)	6月3日(水)、6日(土)	6月6日(土)		
		6月2週目					
		サマーカー「いろはにほんご教室」月・水(4時～5時)/NJキャンパス・0んご					
	サマーカー期間	前期	1週目	6月29日(月)、7月1日(水)	7月6日(月)、7月8日(水)		
		2週目	7月13日(月)、7月15日(水)	7月20日(月)、7月22日(水)			
	後期	1週目	7月27日(月)、7月29日(水)	7月27日(月)、7月29日(水)			
		2週目					
第2学期	8月4週目	8月19日(水)	8月19日(水)、22日(土)	8月22日(土)			
		8月26日(水)	8月26日(水)、29日(土)	8月29日(土)			
		9月1週目	9月2日(水)	9月2日(水)、5日(土)	9月5日(土)		
第3学期	2月1週目	2月3日(水)	2月3日(水)、6日(土)	2月6日(土)			
		2月2週目	2月10日(水)	2月10日(水)、13日(土)	2月13日(土)		
		2月3週目	2月17日(水)	2月17日(水)、20日(土)	2月20日(土)		

育英サタデースクール主催

バイリンガル子育て体験 講演会・座談会シリーズ

----- お母さん 編 その1 -----

バイリンガル子育ての道は一つの正解というものがある訳ではなく、ご家庭の状況やお住まいの地域の環境、そして何よりも子ども一人ひとりの個性によって様々な道があるかと思われます。

2014年度から始まった育英サタデースクール主催のバイリンガル子育て講演会・座談会も第2回(6月14日)、第3回(10月25日)と好評を頂いております。今回は第2回のお母さん編の報告(その1)をさせていただきます。

(第3回目の座談会「英語を母語とするお父さんの関わり方編」の報告も次号以降にさせていただきます。お楽しみに。)



<第2回目のテーマ>

- ①「わが家が現地校とサタデースクールの組み合わせを選んだ理由」
- ②「現地校とサタデースクールとの両立のためのわが家の工夫」

話題提供者

母親1: サタデー小学部に2人のお子様があり、日本語と英語のバイリンガル環境で育ったお母様。ご主人は英語が母語。

母親2: サタデー中学部に2人のお子様があり、日本語を母語とするお母様。ご主人は英語が母語。

母親3: 英語、日本語、韓国語の3ヶ国を話す家庭で育つサタデー中学部に2人のお子様がある日本語を母語とするお母様。ご主人は韓国語と英語で育ったバイリンガル。

日英バイリンガル環境にあるご家庭で育つお子さんのお母様3名に集まって頂き、お子さんの教育のためになぜ、サタデースクールとの組み合わせを選ばれたのか、そして現地校とサタデースクールとの両立のためにどんな工夫をされているのかを伺いました。また、座談会の最後には子育て中の参加者から様々な悩みや相談が寄せられ、それぞれの話題提供者からは子育ての先輩としてのそれぞれの経験に基づく「回答」が共有されました。

母親1

<選択の理由>

姉妹共に日本語力の育成を考えて、未就園児の時から育英の教室に通い、そのまま育英の全日制幼児部へ入園した。その後、姉妹とも現地校のキンダーに入り、それに合わせて、NY育英の全日制幼児部からサタデーの幼児部へ編入した。姉妹で学力、語学力、性格も異なり、姉が現地校に入ってから特に姉妹間の会話が英語となったこともあり、姉に比べ妹は英語の方が優位。但し、同じように育てていたとしても姉妹で同じようにはならなかったと思う。主人は育英の全日制小学部卒業まで通ってもいいと言ってくれたが、現地校にキンダーから移った理由は、①アメリカ人として普通に育ててあげたいので、キンダーからの現地校を経験させてあげたかったこと、②近所にお友達をつくってほしかったこと、③主人の家族と英語で問題なく話が出来るようにしてあげたいこと、などであった。主人の家族(親戚)からはこんなに小さいのに週6日も学校に通うのは、宿題もあるし、かわいそうとの指摘もあったが、最近になってバイリンガルが宝であると理解してもらえるようになった。娘達も日本語が話せることをプライドだと捉えるようになってきた。下の娘を現地校に入れる時期(キンダー)に関しては、姉が語学力があったので、姉を育英の全日制小学部に2~3年生まで在学させて、家庭での日本語環境を整えてあげられれば、もう少し妹の方の日本語に自信をつけてあげられたかなと、今思うと考えることもあるが、とにかく今はもう選択したのだから、この中で今できることをがんばらせていきたい。

<両立の工夫>

現地校とサタデーの両立については小学3年生頃までは特に苦しいことはなく、自分で学習できるレベルにあったが、小学4、5年生の時期というのは、現地校とサタデーとの間で自分の実力のギャップが明らかになり、そのギャップがどんどん開いていって、サタデーがとても難しく感じる時期。教科書も4年生の文字は小さくなり、日本語で読書をしなるとかなり難しくなるようだ。現地の習い事も高学年になると、それまで30分で終わっていたものが、試合なども入るようになり、2時間、3時間とかかるようになり、時間がかかるようになるにつれてよりプレッシャーを感じるようになったようだ。それで私も考えを変えて、結局、その子、その子の実力にあった、バランスのとれたこと、その子に合ったレベルを考えてあげたい。何をするために日本語を勉強しているのか、考えてあげたい。「日本で活躍したければできるようにしてあげたい。」、ということを目標にがんばらせています。

<その2、その3と次号以降に続く>

お問い合わせ/サタデーNJ校ディレクター: 上妻 雅浩



**Project: "ConnectED" through Kids' ISO 14000 Programme between Buenos Aires and New York**



--- 北米大陸・南米大陸を繋ぐ ---

**ブエノスアイレス・ニューヨーク 子どもTV国際会議 2014**

昨年(2013)に続き、今年も10月29日(水)にニューヨーク育英学園NJキャンパスにおいて、全日制小学部5年生児童10名とアルゼンチン国ブエノスアイレス市の5年生児童とがスカイプを使って活発な意見交換を行いました。今回はブエノスアイレス市教育委員会グリーンスクール課から選ばれた2校がそれぞれの校舎から参加し、3校間での交流となりました。1校は公立小学校代表として、Escuela 4 DE 13 (Ms. Graciela Roca 校長、参加児童数60名)が、もう1校は私立学校代表として Instituto Privado Argentino Japonés "Nichia Gakuin" 日亜学院 (1927年創立のスペイン語・日本語・英語のTri-Lingual 幼小中一貫校、Sandra D'Agostino 校長、参加児童数42名)が選ばれました。共に3年前からブエノスアイレスでのKids' ISOの普及に中心的役割を果たしてきた学校です。司会進行は日亜学院日本文化センター所長の三井デリア氏によるスペイン語、日本語の同時通訳で行なわれました。はじめにそれぞれのクラス代表が挨拶を交わし、本学園からはクラス委員の東さくらさんが元気よく自己紹介してくれました。限られた時間でしたが、双方から、お互いのアイデアを披露することができ、歓声があがりました。何よりも笑顔で、南北アメリカ大陸が繋がったことが嬉しいことです。3校を繋いだ試みだったために、途中でスカイプの回線が何度か途切れてしまいましたが、こちらでは、その度に地球儀を示してブエノスアイレスの歴史や簡単なスペイン語(buenos =good, aires=air や簡単な挨拶など)の紹介の時間にあてていました。あっという間に予定の時間が過ぎ、もっと時間がほしいところで、また今度、となった時には、「じゃあ、お昼ごはんを食べてからこの続きを午後からしよう」と、子ども達が言い出したのを聞いたときは、「よし」、と思いました。本調子が出てきたところだったので。続きはまた今度、ということで、今回の交流も大成功でした。(今回、途中で何度か回線が途切れてしまいましたが、後で聞いた話ですが、ブエノスアイレスではこの日、空港も閉鎖や遅れが出るほどの「春」の嵐が吹き荒れ、雷雨も激しく通信回線も不安定だったということでした。赤道を挟んでほぼ真北に位置するここイングルウッドクリフでは「秋」の平穏な一日でした。このような出来事も地球のおける北半球、南半球の違いを体験的に知るいい機会になりました。)




NY 育英学園 5年生

※交流の様子や子ども達の感想文はNY育英学園のホームページ [JapaneseSchool.org](http://JapaneseSchool.org) で紹介しています。そちらもご覧ください。

**お問い合わせ**  
Kids' ISO 14000 Programme 国際認定インストラクター: 上妻 雅浩

**育英ダブルダッチチーム、世界大会2014準優勝!!** お問い合わせ/ダブルダッチクラブ担当: 笠間 将平


12月7日、ニューヨークの観光地として有名なハーレムのアポロ・シアターで、フランスや日本など世界各国の代表が集うダブルダッチの国際大会「National Double Dutch Holiday Classic 2014」がアポロシアターで開催され、今年も育英ダブルダッチチームが上位入賞を果たしました。今年で7年連続出場となった育英チームは、過去最多の4チームが出場しました。主な競技部門は、跳んだ回数を競う「シングルス」、「ダブルス」のスピード部門、音楽に合わせてフリースタイルの演技を披露しながら技術や表現力を競う「FUSION」部門。FUSION部門では、加え、様々なフォーメーションを駆使した「WASABI (7<sup>TH</sup> GRADE)」が今回出場しました。チームキャプテンの前田星彦くんは「ステージ上では今まで味わったことのない歓声が聞こえて来て緊張したけど、一生の思い出になるくらい楽しかった」と語っていました。また、スピード部門では、「白百合(しらゆり/4<sup>TH</sup> GRADE)」が出場し、学年別「シングルス」部門で準優勝を果たしました。同チームコーチの内田さんは「正直言ってここまでやってくれるとは思っていませんでした。メンバーにとって、大勢のお客さんの前で披露したりその他のチームの演技を見たりすることはプレッシャーだったと思うが、上位入賞ができて非常に嬉しく思う」と話していました。今年度はこの他にも、6月にサウスカロライナで行なわれた国際大会でも優勝するなど1年を通して輝かしい成績を残しました。



~先輩から一言~

そとおか じゅん  
弁護士 外岡 潤さん

こんにちは、外岡です。私は今から20年以上前の10歳の頃、新聞記者だった父の転勤に合わせて、家族でニュージャージー州に越してきました。ニューヨーク育英学園には兄弟3人で1年間お世話になり、結局英語を身に付けられないまま帰国してしまったのですが、そのときの思い出は今でもかけがえのない大切なものとなっています。この度岡本園長先生から久方ぶりにメールを頂き、学園が大変発展されていることを知り、我が事のように嬉しく思います。また園長先生は二十数年前の生徒だった私のことを実によく覚えて下さっていて、嬉しいやら恥ずかしいやらでした(問題児だったからかもしれません...)。育英学園の先生方はユニークな先生が多く、生徒一人ひとりの個性を伸ばすのびのびした教育を施して下さいました。父が海外へ行くことが多かったため、私は幼い頃から漠然と「英語を使った仕事」に憧れていましたので、高校のときはオーストラリアにショートステイしたこともありました。海外に行って初めて、日本人の特徴や考え、日本という国の在り方が分かるのだと思いました。弁護士になり最初に入った事務所では英語を使うことも多かったのですが、思うところがありお年寄りの介護や障害者福祉の現場で起こるトラブルを解決する弁護士として独立しました。今日本は超高齢社会と言われていて、2025年には4人に1人が75歳以上になる見込みです。このようにお年寄りが増えていく中で、弁護士としてできることは裁判で争うことではなく、日本人ならではの「和の精神」をもって話し合いで解決することであると日々奮闘しています。育英学園の生徒の皆さんも、私がそうであった様に今の経験はきっと将来役に立ちますから、のびのびと学びを続けて行って下さい。



東京大学卒。都内法律事務所勤務後、2009年に「法律事務所 おかげさま」を開業し日本の介護・福祉現場におけるトラブル解決に取り組む。

「先生、社会の時間の人物の名前がみんな『ミナモトノ』と聞こえちゃう。どうしよう」

埼玉で中学の国語教師になって四年目の秋、その学校で始めて受け入れた『帰国子女』のMさんの言葉である。当時、帰国子女という言葉は知っていても、実態を知っている教員は少なかった。1980年代から90年にかけて、日本がバブル景気が高揚していた頃である。帰国子女、バイリンガル教育などと言う言葉が巷に広まりつつあったが、正直、当時の公立中学はそれどころではなかった。なぜなら、多くの学校が「校内暴力」の嵐の中にあっただからだ。私はその嵐の中で、新任から6年間を過ごした。そして、Mさん達を卒業させた年、私は、文部省の派遣教員として、アメリカの日本人学校で中学国語を教えることになった。赴任期間は3年。素晴らしい生徒に恵まれ充実した3年間はあっという間に過ぎた。そして、再び埼玉の公立中学に戻った。そこでは、国語を教えるのと同時に、今度は、中国帰国孤児子女のための日本語教室を設立する仕事に取り組んだ。どうにか軌道に乗ったかという4年目、アメリカ人の夫の強い希望で再びアメリカに戻る事となった。今度は二歳の長女と四か月の長男を連れて。

1997年。初めて岡本園長とマンハッタンで面接し、そのあと育英学園に案内された。そこで私を迎えて下さった職員の皆さんは園舎の雰囲気そのままにほんわりと温かかった。アメリカに来て初めてほっとする空間に出会えたと思った。慣れない土地での年子の子育ては自分で思っていた以上のストレスを私に与えていたのだとその時悟った。その年の10月、サタデー部門小学五年生の担任として迎えられた。当時サタデーは5年生までしかなく、担任は私以外、全日制の先生がそのままサタデーを教えていた。

それから数年後、岡本園長から中学部の設立を相談された。気軽に「あいいいですね。」と返答すると「そこは岡部さん、私がやりますって手を上げなくちゃ」と切り返されたのを思い出す。最初は、中学一年生から担任と数学社会担当を廣井先生、主任と国語を私が担当した。なにしろ生徒は優秀、保護者は熱心。廣井先生は私と同じ埼玉の公立中学、更にアメリカの日本人学校に派遣教員として赴任していた経験を持っている。今までの経験を生かした中学部の土台造りは、順風満帆のスタートだった。次の年には真辺先生が加わり、生徒数も一挙倍に増えた。そして初めての卒業生が出るころには、ほぼ今の形に近いものができていたようだ。それから更に数年、今度は私の方から、上妻ディレクターに高等部の設立を提案した。そして現在に至る。

今、大忙しで私の学校での仕事を振り返って書いている。しかし、先ほど少し触れたが育英で働くことと、私の子どもの日本語での教育とは同時進行で進んでいた。小学六年生を担任していた時

「先生、なんか幼稚園の子がドアから覗いてるんだけど」という生徒の発言。見ると長女がドアのガラス越しに私の授業を見ていた。又、初めての運動会を経験した小学一年生の長男が夜、ベットの中で「ママ、今日は僕、今までで一番楽しい日だった」と言ったことも忘れない。

そんな彼らも、今はアメリカの大学生だ。私も、私の子ども達もサタデーで、言葉では言い尽くせないくらいたくさん思い出を作ることができた。感謝している。そして彼らもここで学ぶことがなかったら、「日本語の『読み書きまでできる』バイリンガル」にはならなかったと思っている。

(記：サタデースクールN J校高等部担任兼中学部・高等部国語専科/岡部 弘美)

職員インタビュー



母の似顔絵：岡部はな（中学生当時）

全日制幼児部 インターンシップの紹介

福住優人（ふくずみ まさと）君

（2013年度サタデーニュージャージー校高等部卒業生）

子ども達に大人気のお話がとても上手なお兄さん先生です。子ども達の前に立つと、雰囲気を一気に幼稚園の先生に変えて、笑顔と元気いっぱい保育に参加しています。

現在は Bergen County Academies の忙しい受験勉強の中、週に一回の全日制幼児部特設クラスの補助をはじめとし、学園行事等のサポートをしながら、将来の夢である教員を目指して熱心にインターンシップに取り組んでいます。



紹介者/全日制幼児部主任：小山 由里子



前号（2014年10月15日付）以降にご寄付・ご協力頂いた企業・個人の皆様

奨学金基金&寄付金

- DNP AMERICA, LLC
- IMPERIAL WOODPECKER LLC.
- TREND POT NY, LLC
- MR. ALFREDO O DEANGELIS
- MS. CHIAKI HONDA
- MR. HIROYUKI WATANABE
- MR. KAYSER STRAUSS
- MS. KIYOMI KOIZUMI
- MR.&MS. LANDAU
- MR. MASATAKE KURAMOTO
- MS. MAYUKO K. PERPETUA
- MR. & MS. STRAUS
- MS. SACHIE TAKAKU
- TERUO T. HIROSE, M.D.
- MR. REIZO YOSHIDA

学園グッズ・カレンダー購入

- MS. HIROMI BASSETT
- MR. JUNICHIRO ARIMA
- MS. MIRABEL LEE
- MR. NAOHISA HIGASHIDA
- MR. NAOYA MATSUSHIGE
- MS. NOBUKO KODAMA
- MR. TAKESHI HATADA
- MS. TSUBOMI TANAKA
- MR. SHOJI MABUCHI
- MS. VIVIAN HAYASHI-TSAY



(2015年1月9日現在)



～皆様のご支援に心より感謝申し上げます～  
★全てのご寄付は米国での税控除の対象となります。  
All contribution is tax deductible. 501(c)(3) organization  
☆本学園ホームページ JAPANESECHCHOOL.ORG  
から PayPal をご利用できます。

お問い合わせ/ファンドレイジング担当：半場 綾子

2015年度版 NY育英学園オリジナルカレンダー完成!

お問い合わせ/新企画担当：牧野 佳代子

昨年度より製作と配付を開始した本学園オリジナルカレンダーですが、35周年を迎えた創立記念日の11月18日に来年度のカレンダーを配付開始いたしました。2015年1月から2016年3月までの15カ月に渡るカレンダーで、日米の行事や日本の二十四節季、本学園の行事予定、そして本学園全部門の写真をふんだんに使用したのとなっております。カレンダーをめくると、四季折々に子ども達の笑顔が広がっております。

※学園在籍のご家庭及び学園協力を頂いている皆様には、それぞれ1冊ずつお届けしております。

※ファンドレイジング販売用の在庫が少しございますので、購入をご希望の皆様は お問い合わせください。

(1冊10ドルです。)

